

「適切なケアマネジメント手法」

～地域で支えるケアマネジメントの実現に向けて～

実践研修プログラムのご案内



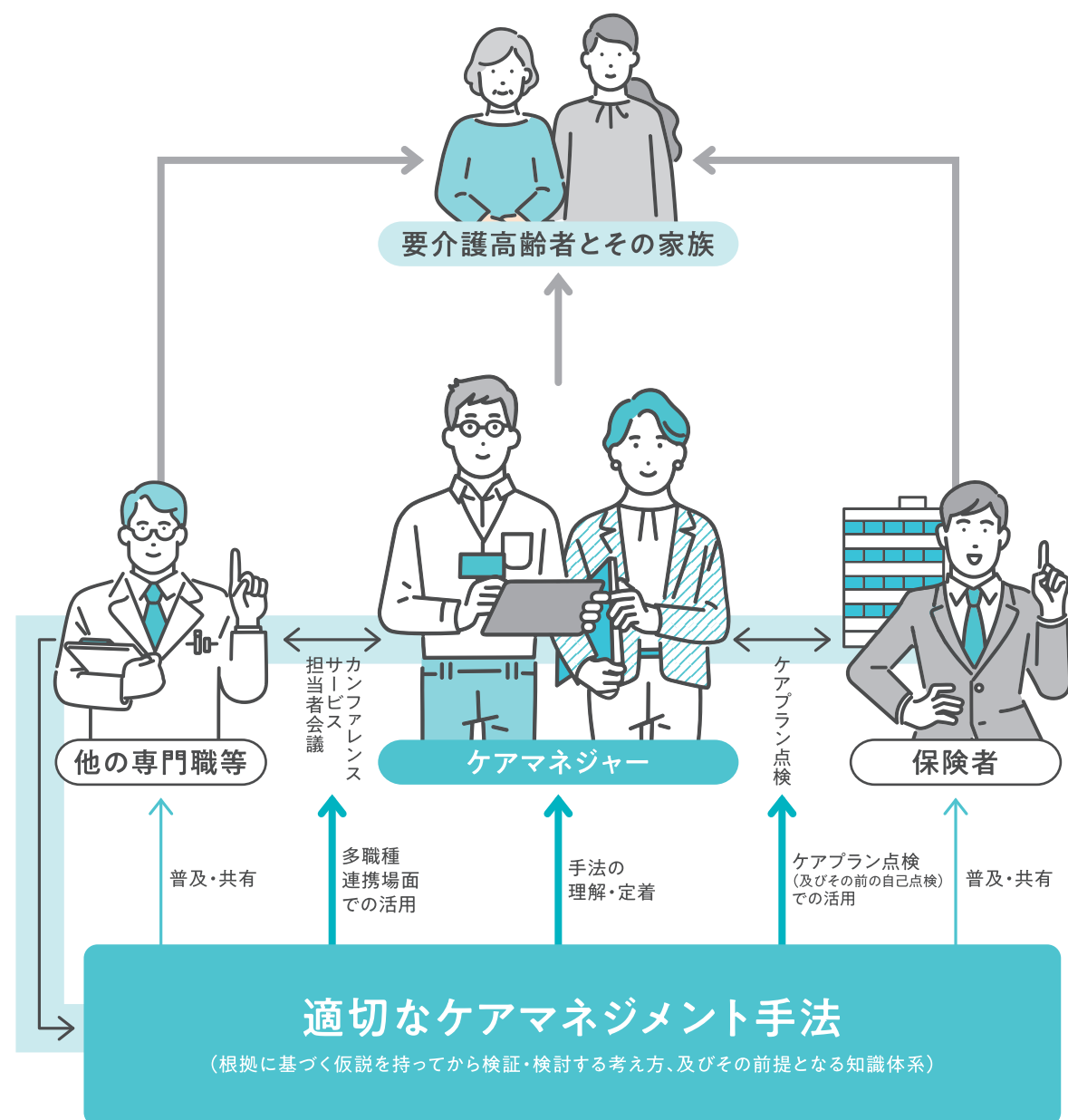
令和3年度事業で、ケアマネジャーと多職種の知見を体系化し、
「適切なケアマネジメント手法」の使い方を学びあう研修プログラムを試行しました。
みなさんの地域で「適切なケアマネジメント手法(想定される支援内容の体系)」を
取り入れる第一歩としてご活用ください。

「適切なケアマネジメント手法」とは

要介護高齢者の生活の継続を支えるうえで必要な支援内容を体系化したものです。

ケアマネジャーや他職種、保険者が共通の土台として活用することで、
お互いに連携しやすくなり、個別化した支援を組み立てやすくなることが期待されます。

尊厳を保持し、住み慣れた地域での生活継続を実現



研修の
ねらい

「適切なケアマネジメント手法」の具体的な使い方を体得します。

「適切なケアマネジメント手法」は、
いわば辞書のようなものです。
ただ漠然と読むのではなく、必要な時に
しっかり使いこなすことで効果を発揮します。
本研修では、この手法が大切にしている考え方を
参加者の担当事例に当てはめてみながら使い方を
習得することをねらいとしています。



「適切なケアマネジメント手法」が大切にしている考え方とは？

1

支援内容の“あたり”をつけて、 効率よく個別化を行う

ケアマネジャーはインタークで得る限られた情報をもとに「どのような支援が必要そうか」「何を詳しく確認すべきか」の“あたり”をつけることで、その後の情報収集を効率よく行い、個別化したケアプランを考えやすくなります。

本研修では参加者自身で
“あたり”をつけたり他の参
加者から助言を受けたり
しながら、本人・家族への
深い聞き取りや他職種と
の検討を行い、支援内容
を具体化していきます。



2

まず基本ケアを押さえてから、 疾患別のケアを参照する

この手法は「基本ケア」と「疾患別ケア」を
組み合わせて使いますが、生活の基盤を
整える視点を示した基本ケアをまず押さえ
ることが大切です。

本研修では基本
ケアの内容と捉え
方の理解、支援内
容の掘り下げ方の
習得を促します。



研修の特徴

1

3ヶ月の実践を通じて、ケアマネジャーの意識・行動の変化を促します

座学と実践の反復を通じて、「適切なケアマネジメント手法」に基づいて考えて動くことが身につきます。

2

参加者同士で助言しあうことで、地域での知見の蓄積につながります

グループワークを中心としたプログラムであり、情報収集のやり方や具体的な支援内容を助言しあうことで、地域における実践的な知見を共有しやすくなります。

学びのプロセス

準備段階

- ・手引きと動画を用いた予習
- ・現場実践で用いる事例選定と自己点検

第1回

研修

- ・基本ケアの内容と捉え方、事例の掘り下げ方の講義・演習
- ・現場実践で着目する項目の絞り込み



現場実践

- ・追加情報収集と課題の再確認
- ・(必要に応じて)ケアプラン、支援内容の見直し



第2回

研修

- ・実践結果と課題の共有
- ・グループワークを通じた具体的な実践方法の検討・助言



現場実践

- ・追加情報収集と課題の再確認
- ・(必要に応じて)ケアプラン、支援内容の見直し



第3回

研修

- ・実践結果と課題の共有
- ・グループワークを通じた具体的な実践方法の検討・助言



現場実践

- ・追加情報収集と課題の再確認
- ・(必要に応じて)ケアプラン、支援内容の見直し



第4回

研修

- ・取り組みの振り返りと総括
- ・今後の実践宣言



日々の業務でいざ実践!



1か月目

2か月目

3か月目

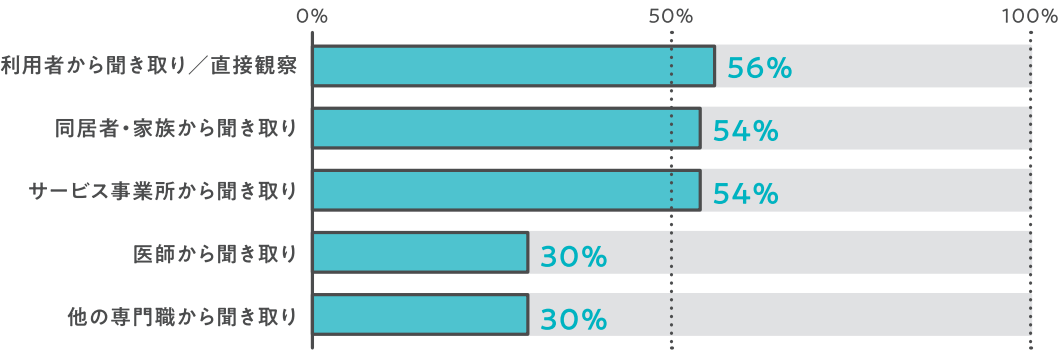
参加者や事例の変化

1

より幅広い視点で情報収集や 支援内容の具体化に取り組むようになった

観察・聞き取り項目数が増えた人の割合

(本研修で用いた基本情報・モニタリング表の64項目について、
令和3年度モデル地域での試行実証参加者63人の記入結果を分析)

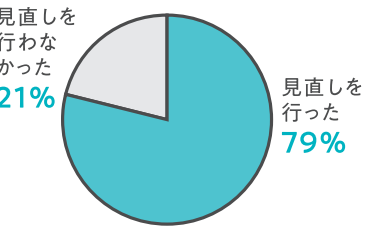


多くの参加者が聞き取りの幅を広げました。
追加で収集した内容としては、水分摂取状況、
感染症対応、将来の生活の見通しを立てる
支援に関わるものなどが多く見られました。

参加者の声

アセスメントやモニタリングが「厚みを増していく」ような感覚でした。

支援内容の見直しを行った (令和3年度モデル地域での試行実証参加者95人の回答)

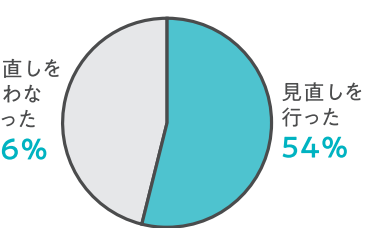


水分摂取の目標値や、本人・家族の思い・
出来ることを踏まえた支援内容への変更などが行われました。

参加者の声

水分摂取を勧める記載はあったが、家族・事業所により具体的な望ましい水分量を伝え、双方で摂取状況を把握する支援を行うようになりました。

ケアプランの見直しを行った (令和3年度モデル地域での試行実証参加者94人の回答)



医師の指示や他職種との検討を踏まえ、短期目標やデイサービス等での
ケア方法の変更、セルフケアの追加などが行われました。

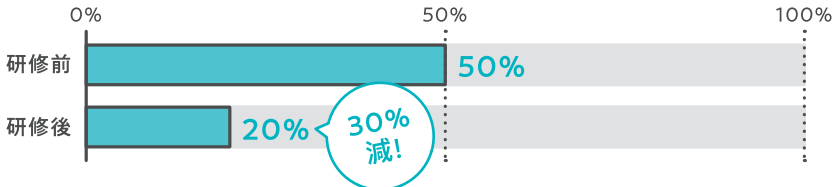
参加者の声

セルフケアの不十分さや歯科への受診中断が再アセスメントで分かったため、口腔ケアの項目をケアプランに追加しました。

2

ケアにおける留意点を 他の専門職に確認しやすくなった

留意点の確認に対する不安感 (令和3年度モデル地域での試行実証参加者97人の回答)



個別化に向けてどの職種に何を確認したら
よいか分かりやすくなった、相談を
持ち掛けやすくなったといった反響がありました。

参加者の声

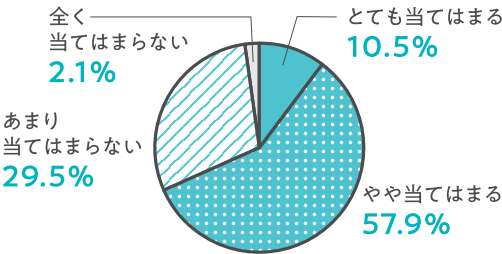
この手法を用いれば自分でも仮説を立てて医療職と話ができるなと思いました。

3

ケアマネジャーとしての自信が高まり、 今後の活用に向けた人脈を得られた

本研修を通じて ケアマネジャーとしての 自信が高まった

(令和3年度モデル地域での試行実証参加者95人の回答)

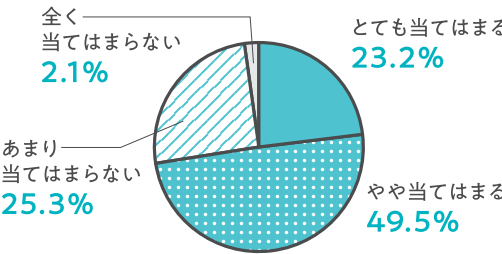


参加者の声

ケアマネジャーという職種全体での自信向上につながると思う。

本研修を通じて 「適切なケアマネジメント手法」活用 に向けて相談・連携できる人脈を得た

(令和3年度モデル地域での試行実証参加者95人の回答)



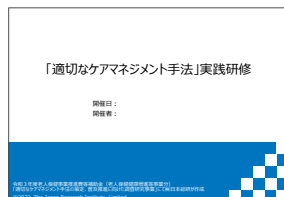
参加者の声

グループワークで受けた刺激に背中を押されて行動できた。

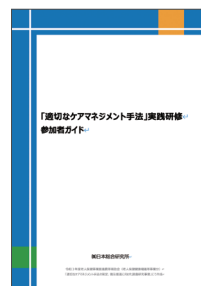
「適切なケアマネジメント手法」実践研修のプログラムや教材のご案内



実践研修報告動画



研修テキスト



参加者ガイド

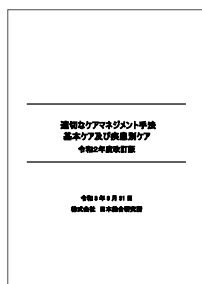


サブ講師ガイド

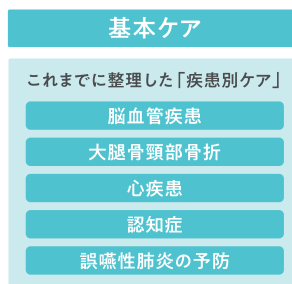
「適切なケアマネジメント手法」の基本ツール

「適切なケアマネジメント手法」の考え方や内容をまとめたツールは下記サイトからダウンロードが可能です。

研修の際はこれらを副教材として用います。



「適切なケアマネジメント手法」
基本ケア及び疾患別ケア
(ケアの冊子)



基本ケア

これまでに整理した「疾患別ケア」

脳血管疾患

大腿骨頭部骨折

心疾患

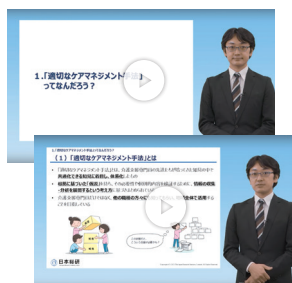
認知症

誤嚥性肺炎の予防

項目一覧
(概要版)



「適切なケアマネジメント手法」
の手引き



「適切なケアマネジメント手法」
に関する動画
の再生リスト



研修の実施方法

研修プログラムや教材を整備しており、各地域の職域団体や自治体が協働で実施することが可能です。

研修の実施を検討される場合は事務局にお問い合わせください。

研修の概要

- ・対象者: 「適切なケアマネジメント手法」に関心があり、実践に取り入れたい意欲のある介護支援専門員
- ・実施方法: オンライン研修、対面研修のいずれも可能
- ・実施期間: 約5か月間(月1回程度の頻度/実践期間を含む)

問い合わせ先

適切なケアマネジメント手法事務局

株式会社日本総合研究所 創発戦略センター

E-mail: 100860-care@ml.jri.co.jp